

## 試みの中の勝利の生活

主イエスが弟子たちに教えられた「主の祈り」の最後の祈願は「我らを試みにあわせず、悪より救い出したまえ」である。

「試み」というとき、聖書は二つの意味で試みについて語っている。第1は、神が父としてその子らである信者を訓練される、という意味での試みである（ヘブライ 12：8～11）。時にそれは試練と呼ばれ、信仰の人アブラハムも主の試みを受け、またイスラエルの民も荒野の40年の放浪の中で主の試みを受けて訓練された（創世記 22：1、ヘブライ 11：17）。

しかし、この第6の祈願で言う「試み」は、そういう意味での試みではなく、神に従う民を神の恵みから引き離して墮落させようとするサタンの「誘惑」という意味での試みである。このような意味での試みは、ヤコブが言うように、決して神からは来ない。神は人を誘惑されるようなお方ではないからである（ヤコブ 1：13）。誘惑はサタンから来る。

サタンは「誘惑者」と呼ばれ（マタイ 4：3、第1テサロニケ 3：5）、神の子らを神との正しい関係から引きずりおろそうと誘惑する。人類の始祖アダムは、その巧妙な誘惑に負けて罪を犯し、ついに人類に墮落をもたらしてしまったことを創世記3章は私たちに告げている。

このサタンの誘惑と力が、昔の話ではなく、今もなお、私たちのうちに、また私たちに対して働いていることを聖書は繰り返し語り、また私たちの経験もそれが本当であることを教えている。何と多くのキリスト者がサタンの巧妙な誘惑に負けて、取り返しのつかない罪を犯してしまうことか、私たちがそのような悲しむべき事実を数多く知っている。

使徒パウロは、この世におけるキリスト者の生活を「戦い」のイメージで語り、キリスト者の生涯は戦いの生涯である、しかしその戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、闇の世の主権者、また天上にある悪の霊、すなわちサタンとその悪の力に対する戦いであると語る。そしてこのサタンの様々な策略に対抗して立ちうるために、キリスト者は神の武器である福音の言葉と御霊によって武装しなければならない、と教えている（エペソ 6：10～18）。

「我らを試みにあわせず、悪より救い出したまえ」とは、この世の中で絶えず悪の力、サタンの攻撃にさらされているキリスト者の戦いの祈りであると言っている。しかし、この戦いの祈りは悲壮な叫びではない。なぜなら、サタンは、すでにキリストの前に敗北者であり（ヘブライ 2：14）勝利はすでにキリストの御手の中にある。そして私たちがそのキリストの御手の中にあり、そのキリストの御手から私たちを引き離すことはできないからである。そのキリストに信頼して生きるのである。

自分は強いんだ、自分は大丈夫だと思って、自分の力、自分の信仰を誇ってはならない。サタンの誘惑は巧妙かつ執拗である。多くの信仰の勇者たちが、傲慢に陥って、サタンの誘惑の犠牲になったことを忘れてはならない。自分の弱さ、愚かさを謙虚に認め、何事においても勝利者であるキリストに信頼して生きる。そこにキリスト者の勝利の秘訣があることをこの祈りは私たちに教えている。